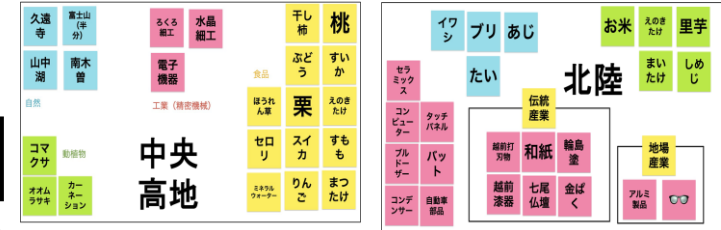


【取組内容①】 社会科の授業におけるデジタルシートをクラウドで共有する工夫

○個別最適な学びに向けた取組

単元名	中部地方 (産業を中核にした考察)	名前	
単元の学習課題	中部地方の各地域で異なる産業が発達している理由を考えよう!		
調査する地方	東海	メンバー	
調査内容・解決方法		役割	時間
1時間めあて	中部地方の地域的特色 (産業) から単元の学習課題を設定し、調査計画書を作成しよう!		
1	中部地方の産業の特色を調べる。	班 個人→全体 エキスパート班 エキスパート班	5
2	単元の学習課題を設定する。		10
3	解決方法を決定する。(シンキングツール、視点など)		10
4	調査計画書を作成する。(2~4時間目+家庭学習で行うこと)		15
1時間振り返り	中部地方の大まかな特色について知ることが出来ました。調査計画書を完成させ、班で流れを確認したいです。		
家庭学習	1 調査計画書についての意見交流をコメント機能を活用して行う。(1人2つ以上) 2 根拠となりそうな資料を集める。(リンクをスライドに貼り付けておく)		
2時間めあて	エキスパート班 (北陸、中央高地、東海) ごとに各地域で異なる産業が発達している理由を調査しよう!		
	○根拠となる資料を探す。(リンクは最後のページに貼り付ける)	A・B	
	○説明に使用するスライドを作成する。		
	○調査したことをWEB共有ボードで整理する。	A・B	20
2時間振り返り	根拠となる資料を探し、クラゲチャートや東海地方のスライドを完成に近づけることができました。次は、原稿を考え、発表練習まで行けたらなと思いました。		
家庭学習	○根拠となる資料を探す。 ○他の班のスライドを参考にする。(同じ地域・異なる地域を調査している班)		
3時間めあて	エキスパート班 (北陸、中央高地、東海) ごとに各地域で異なる産業が発達している理由をまとめよう!		
	○説明に使用するスライドを作成する。	B・C	30
	○足りない資料を探す。(リンクは最後のページに貼り付ける)	A	30
	○調査したことをWEB共有ボードで整理する。	A・B・C	20



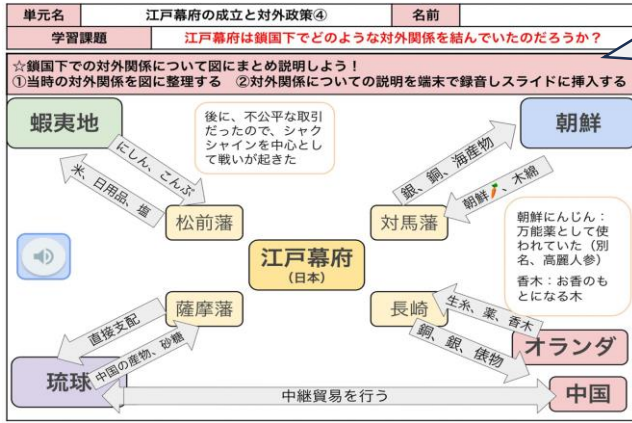
①WEB共有ボードに各地域の産業の特色をまとめ、生徒の言葉で学習課題を設定する。

②自分たちで設定した学習課題の解決に向け、どのような方法で調査を進めるのかを計画する。
(授業ごとの課題設定も行う)

③振り返りの内容から事前に計画していた調査計画に加筆修正をする。
(自らの学びを調整する)

【取組内容①】 社会科の授業におけるデジタルシートをクラウドで共有する工夫

○協働的な学びに向けた取組
・クラウド上での協働的な学び



①江戸時代の国際関係について図にまとめ、当時の国際関係の説明をタブレット端末で録音し、音声としてスライドに挿入する。

図が整理されていて当時の国際関係がわかりやすい。

琉球は江戸幕府が中継貿易をさせていたわけではない？

②友達のスライド(図と音声)を見て、アドバイスや質問を記入する。参考になった点をいかして、再度自分のスライドを修正する。

授業のまとめ (めあての答え)

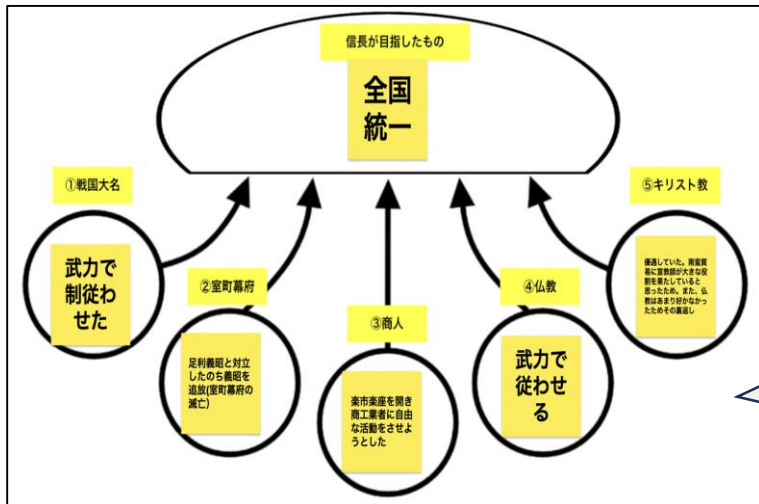
織田信長は、戦国大名を従わせたり、政治の実権を握ったり、経済発展をさせたり、仏教を武力で従わせたり、貿易で鉄砲を入手したりし、天下統一や全国統一を目指した。



②①を参考にして個人でまとめを記入する。

①グループで織田信長が全国統一を目指して行ったことを整理し全体で共有する。

・協働的な学びを支えるシンキングツールの活用



リーディングDXスクール事業 【実践事例】

高森町立高森中学校（熊本県）

【取組内容②】 外部専門家（放送局：熊本朝日放送）による授業の実施（高森東学園とのオンライン授業）

○高森ふるさと学（総合的な学習の時間） 「子ども議会に向けて」



高森ふるさと学「子ども議会に向けて」の授業で、放送局の方をお招きして講話をしていただいた。「子ども議会」での提案に向けて、収集した情報を取捨選択し、第三者に伝えるためのポイントを話していただいた。次回は、「子ども議会」での提案に向けて、生徒の発表の様子を見てもらい、相手に的確に伝えるポイント（表現力）について指導していただく予定である。



本校だけでなく、町内の学校とも連携を図りながら「子ども議会に向けて」の取組を進めている。そのため、今回の講話もオンラインで2校を繋ぎ、同じ講話を聞いた。

【取組内容③】 理科における授業と家庭学習の連動を意識した単元デザインの工夫

○端末の日常的な持ち帰りによる授業と家庭学習の連動

2時間目
10月13日

学習課題
口ウの状態変化と体積・質量の変化を調べよう。

学習内容 (わかったこと・学んだこと)
実験⇒口ウの変化状態と体積・質量の変化
結果⇒温めて液体にした状態でも質量は変わらず。氷水で冷やしても質量は変わらなかった。
体積は液体にすると個体の時より体積が大きくなり、また氷水で冷やしたら積が小さくなった。

振り返りの視点

- ①話し合いを通して
- ②これまでの学習から
- ③もっと調べたいこと
疑問に思ったこと
- ④難しかったこと

ふりかえり

口ウは温めても、氷水で冷やしたら、質量は変わらず、体積が変化した。だから、他の物質も口ウと同じような結果になるのか気になりました。

どの物質も同じような結果になるのかな？
粒子モデルを使って考えてもいいね。

①「もっと調べたい」「疑問に思った」という視点で振り返りを行う。

②教師はコメント機能を活用して、フィードバックを行い、次時の課題設定をサポートする。

③家庭学習で、前時の振り返りから学習課題を生徒

なりに考えた。これにより、次時の学習への意欲が向上し、次時の学習の見通しを持つことができる。これらを習慣化することで授業と家庭学習の連動を図り、学びを深めていく。

家庭学習での生徒の思考

もしかすると、他の物質でも全て同じ結果になるのではないかな。

物質は状態変化するとき、体積と質量の変化の仕方に決まりがあるのかもしれない。

物質の溶け方のときのように粒子モデルを使って考えてみたらどうかな。

学習課題
物質の状態変化と体積・質量の関係を粒子モデルを使って考察しよう。

【取組内容④】 クラウドやシンキングツールを活用した職員会議や校内研修の効率化



ドライブ

ドライブで検索

☰

? ⚙️ ☰

+ 新規

☑️ 候補

📁 マイドライブ

📁 共有ドライブ

👤 共有アイテム

🕒 最近使用したアイテム

... > R5 > 第12回校内研修(事... ▾

種類 ▾

ユーザー ▾

最終更新 ▾

名前 ↑

PDF 第12回校内研修 レジюме.pdf

2023/09/2

KB

連絡事項はコメント機能を活用し、リアルタイムで共有化を図る。

クラウドにレジюме（校内研修や職員会議等）をPDF形式でアップロードし、会議資料のペーパーレス化を図っている。

職員会議や校内研修の際に必要な資料はクラウド上にアップロードし、リンクを貼って閲覧できるようにしておく。

第12回 校内研修(事前研:学年部)

校内研修担当

場 所:職員室

持参物:筆記用具、校務用PC

1 連絡 15:50~

2 校長先生より 15:55~

3 中研について 16:00~

○授業の見どころ・研究の視点

○今後の日程等

4 事前研 16:10~

○投票者決定(第1回:10/2~4、第2回:10/30~11/1、第3回:12/4)

○投票構想(投票の見どころ・研究の視点)

1年部	2年部	3年部
1年2組教室	2年1組教室	3年1組教室

※ 学年ごとに終了

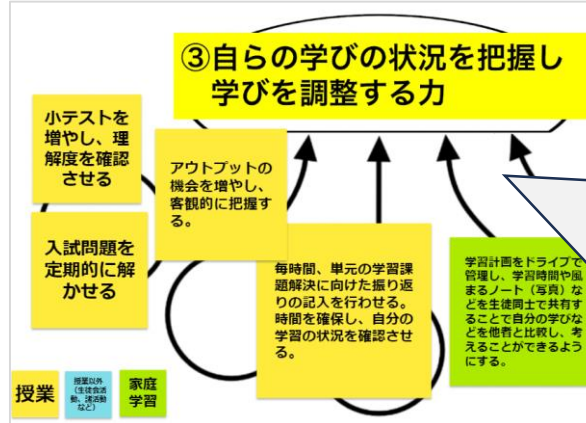
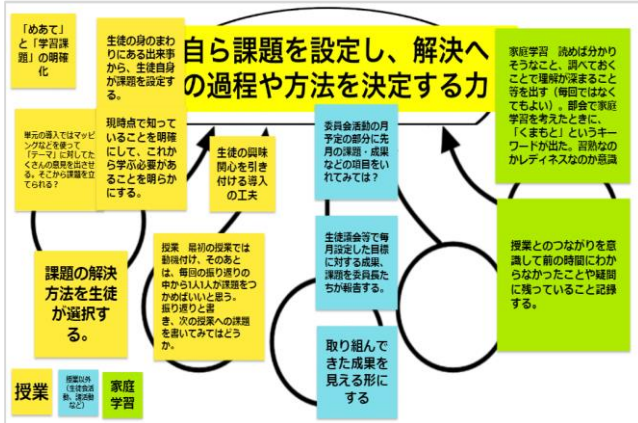
人権作文集「地鳴」について
期日が11月30日に関係者が集まって
添削するので例年より早め（10月末ま
でに内容や保護者への連絡を）の準備を

人事評価について
業績評価と能力評価の自己評価（上期）
と目標設定（下期）
べ切は来週一杯

- ・秋の交通安全週間について
- ・中央小について
- ・代休申請について

【取組内容④】 クラウドやシンキングツール等を活用した職員会議や校内研修の効率化

○校内研修におけるシンキングツールの活用



校内研修のグループ協議の際に、シンキングツール(クラゲチャートやXチャートなど)を活用し、思考の可視化を図る。

○効率的に情報を収集するためのアンケートフォームの活用

今年度の反省、来年度に向けて (校内研修) ☆

質問 回答 12 設定

今年度の反省、来年度に向けて (校内研修)

今年度の反省を記入してください。先生方からのご意見を、来年度の研修計画や研究テーマに活かしていきたいと考えています。ご協力よろしくお願いいたします。

1 研究主題について

③ 研究主題

自立した学習者の育成
 ~学びが広がる「たかもり学習」の展開を通して~

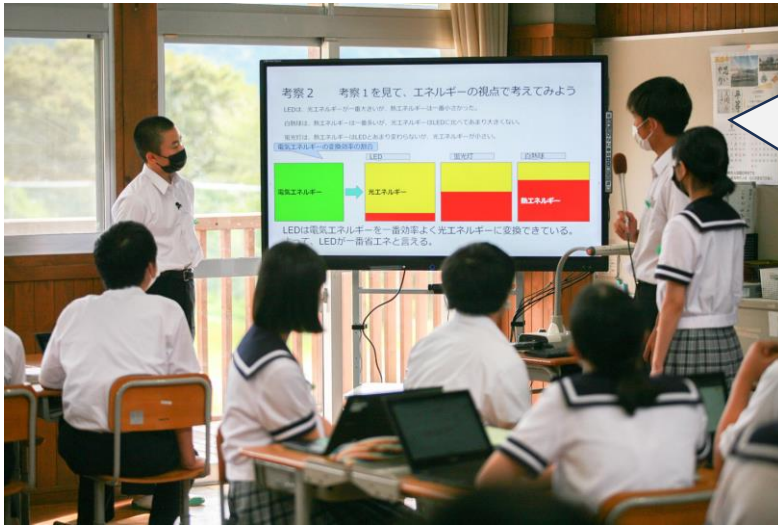
④ 研究主題について

ア 「自立した学習者」について
 これからの日本は、生産年齢人口の減少、グローバル化の進展、人工知能の進化などがますます進み、子どもたちの将来は、予断困難な時代になると言われている。このような時代の中で、令和の日本型教育の構築として全ての子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学びと、協働的な学びの実現を目指し、学校教育においては、子どもたちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働しながら課題を解決していく資質・能力の育成が求められている。
 このことから高森町教育研究会では、「自立した学習者」を自らの学びを把握・調整し、課題解決へのプロセスを自分で決定し、他者と協働して課題を解決する資質・能力を身に付けた生徒と位置づけ、教育活動全般を通してこのような資質・能力を育成することを目標とする。

職員向けのアンケート(職員会議や校内研修に活用する)等はアンケートフォームを活用し、効率的に情報を収集し、整理できるようにしている。

【取組内容⑤】 町内3校で先進事例を発信するための公開授業の取組

○町内3校の授業力向上や参加者への普及を目指した授業公開



高森町では10年間、高森町「新たな学び」研究発表会を行ってきた。地域内外に各学校の先進事例を発信し、当該校の授業力向上や参加者への普及を目指して研究発表会を行ってきた。令和5年度からは新たな形を模索しながら、公開授業の取組を進めている。

授業後は、有識者の方をパネリストとしてトークセッションを行い、町内職員や参加者の学びを深めている。



当日参加できない方のために、授業の録画配信や、授業研究会と全体会のオンライン開催を行っている。

